

# 中央着付士能力開発協同組合

2023年6月に理事長に就任し、早いもので3年目を迎えるようしております。この間、理事の皆様のお力添えにより、新たな一步を踏み出すことができました。年を重ねるごとに、一つひとつ新しい取り組みが積み重なっていくことを切に願っております。

前期より、会員の皆様への情報提供の強化と会員増強を目的として発行を始めました本会報誌も、今回で第2号を迎えました。本号では、中央着付士能力開発協同組合がどのような活動を行っているのか、この1年間の歩みを各理事よりご報告させていただきます。

当組合では、毎月1回の理事会を開催するほか、着付けを学ばれた方々へ全日本きもの技能センター実施の国家資格「着付け技能検定」の受検推奨や対策講習会の実施、各技能士会が主催する「匠の祭り」への参加、中小企業団体中央会の「組合まつり」への出展など、多岐にわたる活動を展開しております。また、小・中学校での着付け教室や登録着付士への就業支援、さらには「きものでお出かけ推奨企画」なども推進しており、本年は理事の発案により「マナー講習会」も新たに開催いたしました。

これからも、組合の「今」を鮮度よくお届けしてまいります。どうぞ、これまで以上に積極的に活動の輪に加わっていただき、周囲の皆様にも当組合の魅力をお伝えいただければ幸いです。

理事長 田中元子

## 「チャレンジ!ものづくり体験工房」参加報告

神奈川支部長 佐藤和子

8月2日、かながわ労働プラザにて、神奈川県・神奈川県職業能力開発協会主催の「チャレンジ!ものづくり体験工房」が開催されました。

神奈川県としては久々の開催となった本イベントには、全18職種の技能士が集結。当組合からは10名の着付士が参加し、浴衣着付け体験のブースを運営いたしました。

当日は、40名ものお子様に浴衣を体験していただくことができました。慣れない浴衣に目を輝かせる姿が印象的で、「参加者や保護者の皆様からも「とても楽しかった」「貴重な体験ができた」といった喜びの声を多数頂戴しました。

次世代を担う子供たちに、日本の伝統文化である着物の魅力や、技能士の手仕事を直接伝える素晴らしい機会となりました。今後ともこうした地域活動を通じ、着付け技術の普及に努めてまいります。



今年も3月から受検申込が始まり、当組合からは関東・中部・関西・北海道と、全国各地から多くの方が「着付け技能士」の国家資格取得を目指して挑戦されました。試験は6月・7月の筆記試験から始まり、一級・二級それぞれの合格を目指して皆様が学習に励まれました。その結果を受け、9月から12月にかけては日本全国で実技試験が実施されました。例年の合格率は、二級が約70%、一級は60%程度と非常に厳しく、確かな技術と知識が求められる難関試験です。

中央着付士能力開発協同組合では、これらの試験に対応するため「実技短期講習会」を実施しております。講習会では、技術の向上はもちろん、試験におけるマナーや正確な手順など、合格に直結するポイントを細やかに指導しております。

今年度も多くの方々に講習会へご参加いただきました。今後もこの取り組みを一層強化し、国家試験合格を目指す皆様に全力でバックアップしてまいります。引き続き、皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 中学校での「職業講話・実演講習」報告

神奈川支部長 佐藤和子

12月1日、神奈川県技能士連合会主催の「職業講話・実演講習」が横浜市立東鴨井中学校にて開催されました。当組合からは講師を派遣し、約20名の中学生を対象に授業を行いました。

前半の講話では、紋服や振袖など4種類の着物を実際に披露。着物の構造や特徴を解説し、クイズ形式を取り入れることで生徒の皆さんと楽しく理解を深めました。後半の実演演習では、生徒同士が相モデルとなって浴衣の着付けに挑戦。慣れない手つきながらも、一生懸命に着物と向き合う姿が見られました。後日、参加した生徒さんから届いた感想には、私たちの胸を熱くさせる言葉が並んでいました。

【生徒さんの感想より抜粋】  
「着物の着方や種類だけでなく、お客様の気持ちを考えて接することの大事さを学びました」  
「男女で紋の大きさが違うことや、場所や状況によって着物を使い分ける格式の文化を知ることができました」

専門的な知識だけでなく、着付けの本質である「相手思いやる心」までしっかり受け止めていただけたことは、講師一同にとって大きな喜びであり、今後の活動への励みとなりました。



## ものづくり・匠の技の祭典2025

東京支部長 田村佐智子

東京都立産業貿易センターにて、令和7年7月25日(土)7日「衣・食・住・工」の様々な分野における匠の技の体感をテーマとして開催されました。会場内は、日本の伝統的な匠の技と、ものづくり技術を見るだけでなく、実際に体験できるプログラムも充実していました。

私たちは、日本の伝統的な装いの美しさと、それを支える技術を凝縮し、華やかなステージを試みました。着付けという動作の技を視覚的に分かり易くパフォーミングするステージをお見せできたと思っています。また、ブースでは浴衣着付け体験と講習を行い、御来場の皆様に楽しんで頂きました。



### ものづくり匠の技の祭典

清水 和子

美容担当 有澤 美晴

今年もものづくり匠の技の祭典に参加いたしました。今回はステージ上で「舞台に映えるヘア」を披露するということが、遠くから見ても映えるヘアスタイルを考案し、着物の色柄に合った髪飾りを自作して使用しました。

こうした努力の甲斐あって、実際にステージに立ったモデルさんたちは、遠目にも華やかで、ひとときわ目を引くあてやかな姿でショーを彩ることができました。

美を表現するということは、着付けの技術だけではなく、その着物に合ったヘアスタイルや髪飾り、アレンジなど、統一された「トータルビューティー」をいかに表現するかに尽きると思います。今後も精進あるのみと痛感させられた次第です。

## 2026年度 事業予定 理事会予定

五月 筆記、実技短期講習会

2025年度決算報告

2025年度匠の会打合せ

2026年度事業計画

匠の会 打合せ

六月

匠の会 開催

匠の会 反省会

八月

実技短期講習会

九月

組合祭 打合せ

十月

マナー講習会

十一月

組合祭 開催

十二月

新年会  
実技短期講習会  
国家検定、ポスター配布

## 「マナー講習会」開催報告

石井 和子

6月25日、西日暮里にて当組合初となる「マナー講習会」が開催されました。今回の講習では、着付士としてだけでなく社会人として身につけておきたい「正しい姿勢の基本」「名刺の扱い方」「手紙の書き方と形式」「食事のマナー」の4項目を中心に、実技を交えて学びました。

特に名刺の扱い方では、実際に名刺を用いて持ち方や受け渡しの所作を一人ひとり確認。頭ではわかっているつもりでも、いざ実践するとなると細かな指先の動きやタイミングの難しさを実感する貴重な機会となりました。

また、手紙の書き方の講習では、実際に文面を作成して読み上げを行いました。他の方の書かれた手紙と自身のものを比較することで、日頃から手紙を書く習慣の有無がいかによりか表力や語彙の差となって表れるかを痛感し、参加者からは「自己反省のきっかけになった」との声も上がりました。

初めての試みとなった今回の講習会ですが、参加者からは「自分自身がまだ知らないことが多くあることに気づかされた」「マナーを学ぶことの重要性を再認識した」といった感想が寄せられ、非常に身近で、かつ実りの多い体験となりました。

### 編集後記

末筆ながら、今期も無事に一年を終えることができました。ことに深く感謝申し上げます。これもひとえに、多くの事業を支えてくださる理事の皆様、そして活動に積極的にご参加いただいている会員の皆様のおかげでございます。

しかしながら、今期は当組合にとって、あまりにも大きな悲しみに直面した年でもありました。長年、多大なるご尽力を賜りました綿貫理事の突然の訃報に、私たち理事一同、大きな柱を失った喪失感で言葉を失いました。ここに改めて、故人のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

昨今は、絶え間なく新たな困難が押し寄せる激動の時代です。どのような荒波の中にあっても、私たちは「組合の意義とは何か」という原点を見つめ直し、強い信念を持って歩みを止めてはならないと感じております。

新たな年度も、皆様と共に着付け文化の振興に力を尽くし、一歩ずつ前進してまいり所存です。どうぞ今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「あなたの胸に潜む思いを形に」

理事長 田中元子

